

2018年3月期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

■2018年3月期通期予想について

Q1：2018年3月期の営業利益が予想より上振れているが、その内訳は？

A1：2018年3月期の営業利益は計画1,660億円であったのに対して、1,745億円と85億円上回った。収入では約170億円計画を上回り、内訳は国際旅客で100億円増、国内旅客で10億円増、貨物・郵便で40億円増。費用面では燃油費が計画を93億円上回ったが、燃油費以外では計画を下回った。

■需要動向について

Q2：国際旅客・国内旅客それぞれの足元の需要動向は？

A2：国際旅客・国内旅客ともに堅調な需要動向とみている。

国際旅客は、足元4月～6月で提供座席数の前年比7%増に対して予約数前年比7%増、国内旅客においても提供座席数 前年比2%増に対して予約数も前年比2%増という状況である。

■国内線について

Q3：2019年3月期の単価について詳しく教えてほしい。60億円の収入按分の変化は織り込まれているのか？

A3：お示ししている計画は60億円の収入按分における方法の変更を含んでいる。収入按分における方法の変更がなければ、単価は前年比マイナス0.1%となりほぼ前年並みとみている。

■旅客基幹システムについて

Q4：旅客基幹システムの効果について、2018年3月期には30億円の効果を見込んでいたと思うが、効果は出たのか？

A3：予定通りシステムを刷新でき、予定通りに進んでいる。現時点で既に、海外地区ウェブサイトの使い勝手向上により、海外地区ウェブサイトによる売り上げが伸びている。

以上